

Asia Indicators

発表日: 2024 年 1 月 19 日 (金)

オーストラリアの雇用底入れの動きに一服感 (Asia Weekly(1/12~1/19))

～インドでは生活必需品のインフレの動きに一服感も、前年の反動で伸びは加速が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/12(金)	(インド) 11 月鉱工業生産(前年比)	+2.4%	+4.0%	+11.6%
	12 月消費者物価(前年比)	+5.69%	+5.87%	+5.55%
1/15(月)	(インド) 12 月輸出(前年比)	+1.0%	--	▲2.9%
	12 月輸入(前年比)	▲4.9%	--	▲4.3%
1/17(水)	(中国) 10-12 月実質 GDP(前年比)	+5.2%	+5.3%	+4.9%
	12 月鉱工業生産(前年比)	+6.8%	+6.6%	+6.6%
	12 月小売売上高(前年比)	+7.4%	+8.0%	+10.1%
	12 月固定資産投資(年初来前年比)	+3.0%	+2.9%	+2.9%
	(シンガポール) 12 月非石油輸出(前年比)	▲1.5%	+3.3%	+1.0%
	(インドネシア) 金融政策委員会(7 日物リバースレポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
1/18(木)	(オーストラリア) 12 月失業率(季調済)	3.9%	3.9%	3.9%
	(香港) 12 月失業率(季調済)	2.9%	--	2.9%
1/19(金)	(マレーシア) 10-12 月実質 GDP(前年比・速報値)	+3.4%	--	+3.3%
	12 月輸出(前年比)	▲10.0%	▲4.0%	▲6.1%
	12 月輸入(前年比)	+2.9%	+4.0%	+1.5%

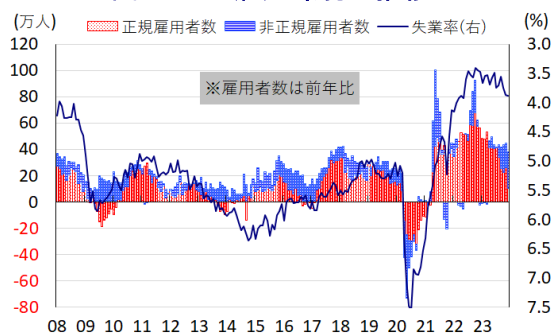
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]～大都市部のみならず、全土において底堅い動きが続いた雇用環境に変化の兆しが出ている～

18日に発表された12月の失業率(季調済)は3.9%となり、前月(3.9%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比▲0.1万人と前月(同+2.1万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では正規雇用に対する求職者数(同▲0.7万人)は減少する一方、非正規雇用に対する求職者数(同+0.7万人)は拡大するなど対照的な動きがみられるほか、中期的な基調は拡大傾向で推移する展開が続いている。一方の雇用者数は前月比▲6.5万人と前月(同+7.3万人)から5ヶ月ぶりの減少に転じている上、雇用形態別では非正規雇用者数(同+4.1万人)が拡大する一方で正規雇用者数(同▲10.7万人)の減少が全体を下押しするとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するもそのペースは鈍化するなど頭打ちの兆しがうかがえる。地域別でも、これまで雇用拡大の動きをけん引してきた最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州などで軒並み減少する動きが確認されるとと

もに、資源関連産業の割合が高い西オーストラリア州や南オーストラリア州でも減少の動きが確認されるなど、全般的に調整の動きが強まっている様子が見えてくる。このように雇用を取り巻く環境に変化の兆しが出ていることを反映して労働力人口は前月比▲6.6万人と前月（同+9.4万人）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど労働市場への参入意欲が後退する動きがみられるほか、こうした動きを反映して労働参加率は66.8%と前月（67.3%）から▲0.5pt低下している。このように、これまで堅調な推移をみせてきた雇用環境に変化の兆しが出ている様子が見えてくる。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[インド]～生活必需品を中心とするインフレに一服感も、前年に鈍化した反動でインフレが加速する展開が続く～

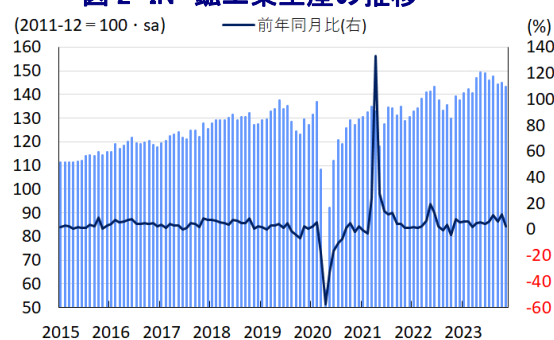
12日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+2.4%となり、前月（同+11.6%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。分野別では、鉱業部門や製造業、電力をはじめとする公益関連など幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かる動きがみられるなか、製造業については耐久消費財を中心とする消費財関連の生産が下振れしていることを受けて、中間財、資本財など全般的に生産が鈍化しているほか、インフラ関連の生産も弱含みする展開が続くなど全体的に頭打ちの様相を強めている様子が見えてくる。

同日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+5.69%となり、前月（同+5.55%）から伸びが加速しているものの、中銀目標（4～6%）の範囲内で推移する展開が続いている。ただし、前月比は▲0.32%と前月（同+0.54%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の調整の動きを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移が続いているほか、コメをはじめとする穀物価格は上昇が続く一方、生鮮品を中心とする食料品価格に下押し圧力が掛かる動きが確認されるなど、生活必需品を中心に物価が下振れしていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.89%と前月（同+4.11%）から一段と鈍化しており、中銀目標の下限を下回る水準となっている。前月比も+0.05%と前月（同+0.23%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の下落により輸送コストに下押し圧力が掛かっていることを反映して幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価も鈍化するなど全般的にインフレ圧力が後退している様子が見えてくる。

15日に発表された12月の輸出額は前年同月比+1.0%となり、前月（同▲2.9%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に

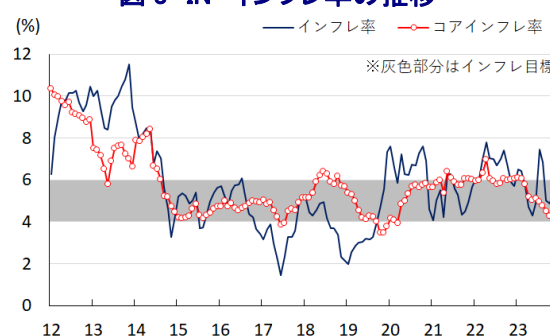
転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きをみせている。原油価格の調整の動きを反映して石油製品関連の輸出額に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、コメに対する禁輸やタマネギに対する高関税など事実上の輸出禁止に動いていることを受けて農産品関連の輸出も弱含みしている一方、機械製品関連や宝飾品などの輸出の堅調さが輸出全体を下支えする展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比▲4.9%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲4.3%)からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出と対照的に頭打ちの動きを強める展開が続いている。電気機械関連や宝飾品関連の輸入は堅調な推移をみせる一方、原油価格の調整の動きが原油の輸入額を下押しする展開が続いているほか、金の輸入額が下振れしていることも輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は▲198.00億ドルと前月(▲206.11億ドル)から赤字幅が縮小している。

図2 IN 鉱工業生産の推移



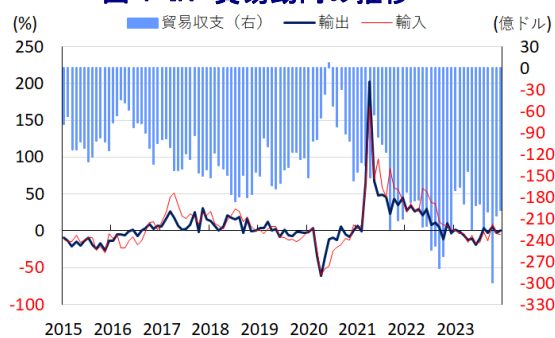
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 IN 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～足下の景気は底入れの動きが一服しており、2023年通年の経済成長率は+3.8%に留まる～

19日に発表された10-12月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+3.4%となり、前期(同+3.3%)からわずかに伸びが加速している。ただし、前期比年率ベースの成長率は▲6.66%と試算されるなど、前期(同+10.73%)から4四半期ぶりのマイナス成長に転じており、底入れの動きを強める展開が続いた景気に一服感が出ている模様である。分野別の生産動向を巡っては、商品市況の調整など逆風が吹く動きがみられるにも拘らず主力の輸出財である原油や天然ガスをはじめとする鉱業部門の生産は底堅い動きをみせているほか、異常気象の頻発による影響が懸念されるも農林漁業関連の生産も堅調な推移をみせている。その一方、世界経済の減速懸念の高まりを受けた外需の不透明感が製造業の生産

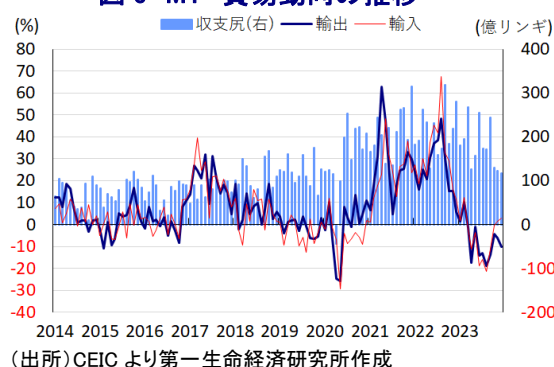
を下押ししている上、物価高と金利高の共存状態が長期化するなかで建設業やサービス業の生産も軒並み下振れする動きが確認されるなど、内・外需双方で不透明感が高まっていることが景気の足かせとなっている模様である。よって、昨年通年の経済成長率は+3.8%に留まるなど、22年ぶりの高成長となった前年(+8.7%)から鈍化している。

また、同日発表された12月の輸出額は前年同月比▲10.0%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲6.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲9.7%と前月(同+2.0%)から6ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど底入れの動きが続いた流れが一変している。商品市況の調整の動きが輸出の重石となっていることに加え、主力の輸出財である電子部品関連の輸出や機械製品関連の輸出も下振れしており、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の足かせとなっている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+2.9%となり、前月(同+1.5%)から伸びが加速している。ただし、前月比は▲2.6%と前月(同▲2.9%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。輸出に頭打ちの動きが出ていることを反映して素材や部材関連の輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、内需が弱含んで居ることを反映して消費財関連の輸入も下振れしている。結果、貿易収支は+117.96億リングと前月(+122.34億リング)から黒字幅は縮小している。

図5 MY 実質GDPと成長率(前年比)の推移



図6 MY 貿易動向の推移

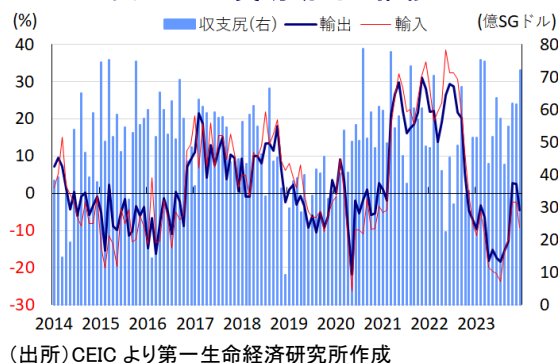


【シンガポール】～原油価格の調整に加え、幅広く輸出入双方に頭打ちの動きが広がる流れがうかがえる～

17日に発表された12月の非石油輸出額は前年同月比▲1.5%となり、前月(同+1.0%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲2.76%と前月(同+0.25%)から4ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの流れが大きく変化するほどの状況とはなっていない。主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連の輸出が頭打ちの動きをみせているほか、化学製品関連の輸出が下振れする動きが確認されるなど、全般的に輸出は勢いを欠く推移をみせている。原油関連を併せた総輸出額も前年同月比▲4.6%と前月(同+2.6%)から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている上、前月比も▲3.1%と前月(同▲4.1%)から2ヶ月連続で減少するなど原油価格の調整の動きが重石になっているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。一方の輸入額は前年同月比▲9.3%と14ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移している上、前月(同▲2.5%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲6.9%と前月(同▲3.9%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動き

を強めている。原油価格の調整の動きを反映して原油をはじめとするエネルギー関連の輸入額に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、輸出に頭打ちの兆しが出ていることを反映して機械製品関連や化学製品関連など素材及び部材関連の輸入も幅広く下振れしている。結果、貿易収支は+72.22 億SGドルと前月 (+61.60 億SGドル) から黒字幅が拡大している。

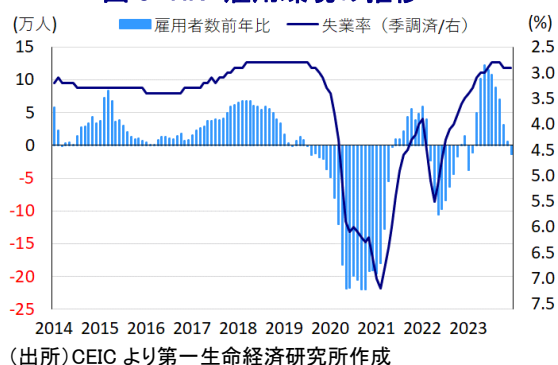
図7 SG 貿易動向の推移



[香港]～中国本土景気や世界経済の減速懸念の高まりを受け、雇用を取り巻く環境は頭打ちの様相を強める～

18日に発表された12月の失業率(季調済)は2.9%となり、前月(2.9%)から3ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比▲2.2万人と減少傾向で推移しているものの、前月(同▲2.8万人)からそのペースは縮小するなど底打ちの兆候がうかがえる。一方の雇用者数は前年同月比▲1.3万人と前月(同+0.6万人)から10ヶ月ぶりに減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めており、中国本土景気を巡る不透明感が高まっていることに加え、世界経済の減速懸念の高まりも雇用環境の足かせとなっている。雇用環境の不透明感が高まっていることを受けて不完全雇用者数も前年同月比▲1.9万人と減少傾向が続くも、前月(同▲2.4万人)から減少ペースが縮小するなど底打ちする動きがみられる。このように雇用を取り巻く環境に不透明感が高まる兆候が出ていることを受けて、労働力人口も前年同月比▲3.5万人と3ヶ月連続のマイナスで推移するとともに、前月(同▲2.2万人)からそのペースも加速するなど頭打ちの動きを強めるなど、労働市場への参入意欲が後退している様子がうかがえる。

図8 HK 雇用環境の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。